様式３　【公表用】

令和6年度（令和5年度実績）　宮崎県立美術館運営状況評価票

Ａ：目標を大きく上回った（120%以上）　Ｂ：目標を概ね達成した（90%以上120%未満）　Ｃ：目標を下回った（60%以上90%未満）　Ｄ：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン					内部評価			外部評価	
基本方針	項目	評価指標	年度間目標	R5年度実績値	成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
(1)収集・保存	①作品の購入及び寄贈作品の受入	作品の購入点数	1点	1点	○一般財源によりレオノーラ・キャリントンの版画1点を購入した。既収蔵作品との比較展示等により、作家作品の世界をより深く理解できるものである。 ●収集候補となる作家・作品の人気の高まりや円安の影響による価格の高騰が見られ、基金を活用した作品の購入に至らなかった。今後も基金の有効活用のため、購入可能な作品の積極的な情報収集と精査を引き続き行う。	B	A	■基金を活用した購入をこれからも考えてほしい。 ⇒対象作家や作品の人気の高まりや物価高による価格高騰もありなかなか難しいところもあるが、収集についても基金を活用したものを計画的に行いたい。 ■保存環境について、ＩＰＭ（薬剤に頼らない虫菌害等への対応）に関することはきちんと書き込んだ方がよいのではないか。 ⇒薬剤での対応を行っているが、ＩＰＭについては日々の清掃による管理や、虫等を入り込ませないこと等に取り組んでいる。 ■大きな地震があったが、館に影響はなかったか。地震対策の尺度になる。 ⇒特別展開催中で、重量物を懸架展示していたが影響はなかった。コレクション展示室でも絵画や彫刻がずれたり倒れたりすることもなかった。スポット照明の向きがずれたものもあったが、作品等には影響なかった。 建物では、東側正面玄関床が一部隆起したりする等の被害が出た。	A
		寄贈作品の受入点数	1点	2点	○企業や作家の遺族等からの寄贈の申し出について調査を行った。瑛九の代表的なモティーフを描いた油彩画と金属を支持体とした希少な油彩画の計2点を、瑛九の研究を進める上で重要と判断し寄贈を受け入れた。 ●寄贈の相談や申し出については、収集方針に基づき確認し検討の上、適宜調査を行うなど、対応していく。	A			
	②作品の修復等	作品の修復又は額装	1点	4点	○特に剥落が進んでいた瑛九の油彩画1点について、補強や裏打、充填整形、補彩等を行い、山本泰業の日本画2点について、洗浄とシミ抜き、新たな表装等を行った。また、新収蔵のレオノーラ・キャリントンの版画作品を額装した。 ●修復や額装が必要な作品について、リストを適宜更新しながら、予算内で行える範囲で優先順位をつけて計画的に修復等を進める。	A			
	③保存環境の整備	外部委託による環境調査	2回	2回	○年間計画に基づき、年に2回調査を行った。調査結果をもとに企画展示室及びバックヤードの簡易燻蒸を行った。 ●経年による雨漏りや、建物環境の変化による虫対策、防かび対策等を考えていく必要がある。	B			
		燻蒸（新収蔵及び館外使用後の作品に限る）	1回	2回	○事前点検を行い、計器等のトラブルなく安全かつスムーズに燻蒸を行うことができた。 ●現在使用している薬剤が生産中止となり、再来年度以降は使用できなくなるため、以後の対応について情報収集にあたりながら計画を立てる必要がある。	A			
(2)調査研究	①研究紀要の発行等	研究紀要の発行やインターネット等での公開	1回	0回	●個々のテーマにおいて、特にコロナ後について、調査の在り方を見直したり、教育普及では今後の活動の活性化と充実に焦点をあて、課題を洗い出したりしたが、研究としてまとめるまでに至らなかった。	D	B	■調査研究の①が評価「D」だが、③の作品解説等の執筆の課題も踏まえ、職員の負担を考えて今後の見通しはどうなっていくのか。働き方改革も叫ばれている。改善策はどう考えているのか。 ⇒日々の業務の中では、調査研究や作品解説執筆まで行うための時間が充分でない。長期的な取組ということで業務の中で時間を確保してほしいと課員に伝え対応している。 ■発想を逆にしてほしい。美術館の意義から考えて調査研究を優先するべきではないか。 ⇒調査研究については大切にしていきたい。	B
	②郷土作家等の情報収集及び作品調査	情報収集及び作品調査	5件	9件	○展覧会や作品収集に関連して、郷土作家を中心とした9件（瑛九関連4件、根井南華1件、池田満寿夫1件、シュルレアリスム作家関連3件）について電話・メールでの聞き取りや訪問等による情報収集及び作品調査を行った。 ●情報が寄せられても、他業務の関係で十分に調査できないことがある。継続して調査を行う人員や時間の確保などの工夫・改善に努める必要がある。	A			
	③作品解説等の執筆	作家・作品調書の作成	14件	14件	○新収蔵作品や展示頻度の高い作品を中心に調査や解説文の執筆を行い、展示解説や広報誌等に活用できた。 ●担当業務の合間を縫っての調査・執筆となるため、調査内容等にやや不十分なものもある。調査研究のための十分な時間確保が長期的な課題である。	B			
	④講義・鑑賞会等の実施	講義・鑑賞会等の実施	20回	27回	○4回のコレクション展では計12回、3本の特別展では計9回の当館学芸員によるギャラリートークや計4回の出品作家等によるギャラリートーク等実施し、作家や作品等に関する調査・研究内容を分かりやすく還元できた。 ○特別展に関連した講演会は2回開催し、展示内容や作家等に関して理解を深めて頂いた。	A			

A：目標を大きく上回った（120%以上）　B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満）　C：目標を下回った（60%以上90%未満）　D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン					内部評価			外部評価	
基本方針	項目	評価指標	年度間目標	R5年度実績値	成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
⑶展示	①コレクション展の開催	コレクション展の開催	4回	4回	○年に4回、各展示室で様々なテーマや切り口により、魅力ある展示空間を提供できるよう工夫している。概ね良好な意見や感想を頂いている。 ○当年度のコレクション展の観覧者総数は昨年度を17%上回る実績（約4,080人増）であった。 ○例年、多くの家族連れで賑わうコレクション展第2期「たのしむ美術館」の観覧者は7,119人であった。同時期開催の特別展の影響からか、前年度よりは減少したものの、一日の観覧者が400人以上になることもあり関心の高さがうかがえた。徐々にコロナ禍以前の数に戻りつつある。 ●年間目標を達成できるように所蔵作品や作家の研究を進めるとともに、コレクションの内容充実に努め、また有効な活用及び効果的な告知や発信方法、見せ方などを工夫する。	B	B	■展示の自主企画は、調査研究とも連動している。学芸の方々が調査研究に基づいてよい企画ができるような環境を整えてほしい。コレクションも充実してきているので、それらを見せ発信するような企画展を開催してほしい。 ■コレクション展への導線として、階段にカラフルな足型シールがある。孫と一緒に来た際、あのシールのおかげで展示室へ楽しんで行くことができた。もう少しコレクション展示室まで伸ばしてもよいのではないか。 ■たのしむ美術館は、鑑賞の楽しさをもっと味わえる点で確かなものだった。毎年、改良されている。個人的には水墨画のコーナーで、家族の語らいが生まれ、楽しく鑑賞・体験した。毎回工夫を重ねており、Ａ評価でもよいと思う。 ⇒毎年楽しみにしているという意見をいただいている。「子供から大人まで誰もが楽しめる」をコンセプトにしており、来館者からは「子供のために連れてきたが、大人も子供と一緒に楽しむことができてよかった」等の意見をいただいた。 今後もよりよい展示の在り方について、工夫を続けていきたい。	B
		年間鑑覧者	28,000人	27,971人		B			
	②特別展の開催	特別展の開催	3回	3回	○「日本の切り絵　7人のミューズ」、「ヨハネ・パウロ2世美術館展 ～華やかなる西洋絵画 伝統の系譜～」、「生誕100年 山下清展」の3回の特別展を開催した。 ○5月から7月の38日間にわたり開催した特別展「日本の切り絵　7人のミューズ」では、日本を代表する女性切り絵作家にスポットを当て、それぞれの作家の代表作や新作を含めた約110点の作品を紹介した。 ○7月から8月の38日間にわたり開催した特別展「ヨハネ・パウロ2世美術館展 ～華やかなる西洋絵画 伝統の系譜～」では、16世紀ルネサンスからバロック、ロココ、アカデミー絵画に至るまでの絵画61点を紹介した。 ○10月から11月の43日間にわたり開催した特別展「生誕100年 山下清展」では、山下清の代表的な貼絵を中心に少年期から晩年までの作品約190点を紹介し、36,000人を超える観覧者が訪れた。 ○当年度に開催した特別展等の観覧者総数は、前年度開催した2つの特別展と小企画展を合わせた実績より、約2,000人ほど上回った。 ○自主企画展と位置づけた特別展はなかったが、コレクション展において、山口長男、置県140年 県庁建設記念作品、根井南華、伊達孝太郎、ジャン・アルプを特集した小企画を実施した。	B			
		年間鑑覧者（全特別展合算）	50,000人	48,222人		B			
		自主企画展等（特別展示を含む）の開催	特別展のうち1回	0回		D			
	③館外展示の実施	館外展示の開催	2回	2回	○「旅する美術館・旅してアート」では、椎葉村と高千穂町の2会場（計12日間）で収蔵作品22点（椎葉19点、高千穂20点）を展示・紹介した。関連イベントとして創作体験や作品解説も実施し、2会場の合計で700人の入場があった。 ○幼児から年配の方まで幅広い年齢層の方が観覧され、アンケートの感想には、宮崎市は遠いため近くで開催されるのがありがたい、もっと開催してほしいといった意見や、著名な画家の作品を間近に見られたことへの感謝の声が多く、好評であった。 ●開会式以外での小中学校からの団体観覧がなかったことや、全世帯にちらしを届けても開催を知らない住民が一定数いたため、開催地の教育委員会等と連携した広報が課題である。	B			

A：目標を大きく上回った（120%以上）　B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満）　C：目標を下回った（60%以上90%未満）　D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R5年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
⑷教育普及	①成人向け講座等の実施	成人向け講座等の参加者	200人	353人	○アーティスト等を招いたアートトークは、ワークショップも含んだ魅力ある内容で実施できた。（2回実施で計50人）。 ○県外から専門家を講師として招聘し、県内では体験できる機会の少ない実技講座「てん刻」と「象がん」を実施した（のべ8日間で64人）。 ○特別展に関連した講演会を実施できた。7人のミューズ展（58人）、ヨハネ・パウロ2世美術館展（69人）、山下清展（63人）、みやざき総合美術展（49人）。	A	A	■「旅する美術館」で、開会式以外の小中学校の団体観覧がなかったようだ。開催時期が学校の忙しい時期と重なっているので、参加しやすい時期に開催できないか検討してはどうだろうか。 また、幼稚園や保育園、児童クラブやデイサービス等、学校以外に焦点を当ててはどうか。 ⇒展示環境が整った施設以外でも開催するため、温湿度の変化の少ない１０月～１１月に時期を限定せざるを得ない。 幼稚園や保育園、児童クラブ、高齢者施設等への広報は、事業を組み立てていく上で貴重な意見として受け止めたい。 ■館外での講座については評価の難しさを感じる。年間目標が200人だが、満足度は高いのに目標を満たしていないため低い評価となっている。館外展示での観覧者数は開催市町村の人口に反映されるので、人口の多い地域と少ない地域等、開催地の組み合わせに工夫が必要。高千穂町の415人はすごいと思うが、椎葉村の285人が少ないかと言われればそうではないと思う。 ⇒人数については成果の一つとしているが、今回の評価は開催数という部分で見ていただきたい。	A
	②子ども向け教室等の実施	子ども向け教室等の参加者	500人	833人	○感染症の影響による内容変更もなく、計画していた8教室全てを予定どおり実施することができた。 ○自由参加型の鑑賞教室が定番化し、リピーターの参加もあり、定着している。 ●感染症拡大防止を鑑み、募集型の教室は定員を5名以下の家族または4組までのグループに限定するなど計画に基づき実施したが、受付終了後の問い合わせも多く、今後は定員を増やすなど開催方法を検討していく。	A			
	③美術図書室・映像施設等の充実	図書・映像等施設の利用者	2500人	6,566人	○美術図書室では、団体で来館した中学生等に、図書室の役割や展覧会図録が豊富に揃っていることを紹介するなどして利用促進を図った。 ○アートシアターでは、特別展開催中に関連番組の上映を行った。	A			
	④館外での教室・講座等の実施	館外教室・講座等の参加者	200人	150人	○旅する美術館の会場で簡単にアート制作に親しめる創作体験を実施した。（高千穂会場：28人） ○旅する美術館の開催地の小中学校を訪問し、美術館オリジナル映像番組の鑑賞や造形体験等を行う「旅する美術教室」を実施した（3校：122人）。児童生徒は、熱心に鑑賞したり、造形体験にワクワクしながら取り組んだりしていた。「本物の作品を見てみたい」との感想もあり、大変好評であった。 ●地域によって学校数にも違いがあるため、今回の参加人数は昨年に比べて延びなかった。今後は地域の公民館等での展開も視野に入れたい。	C			

A：目標を大きく上回った（120%以上）　B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満）　C：目標を下回った（60%以上90%未満）　D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン				R5年度	内部評価			外部評価	
基本方針	項目	評価指標	年度間目標	実績値	成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
⑸広報・発信	①広報誌の発行	広報誌の発行	3回	3回	○予定通り年3回発行することができた。 ○特別展の会期中に、関連小論文を掲載したものを積極的に配布したこともあり、残部がほぼない回もあった。今後も展覧会の作品・作家、イベントの関連記事が掲載されていることを分かりやすく掲示するなどして配布に努めたい。	B	A	■今回配付された広報物もそうだが紙媒体が多い。美術館らしく色鮮やかでよいと思うが、ペーパーレス化や予算等を考慮して紙媒体以外のものを検討してはどうか。 ⇒広報物等については、予算が厳しい部分はある。印刷物を各地に広報として掲示してもらう等、現時点では印刷物は広報として非常に有効である。デジタルも活用していくが、紙も活用していきたい。予算もそのために確保したい。 ■ポスター・チラシといった広報物は、それ自体がデザインであり、SNSにあげる等重要な物で、美術館ではこれからもなくなることはないと思う。 ■アンケートの状況はどうか。何を見て展覧会に来たのか、満足度評価等を継続して確認できる資料があるとよいと思う。量的な評価ではなく質的な評価につながっていくと思う。 ⇒質的な評価について、実際に来場者アンケートをとっている。概ね好評だが、中には厳しいご意見もある。今後、評価を工夫できればと思ってる。 ■ホームページのアクセス数が増えているのはよいことだと思う。若い人はネット中心なので、それが入場数の増加につながっていけばよいと思う。	A
	②ホームページ等の充実	ホームページのアクセス数	180,000回	233,639回	○通常通り展覧会やイベントを実施できるようになり、ここ10年で最もアクセス数が多かった。	A			
		ＳＮＳによる情報発信	100回	164回	○ストーリーズでの展覧会閉幕カウントダウンや、団体の申込状況を適宜発信することで、目標を上回る情報発信を行うことができた。 ○特別展でのSNS広告の実施や、投稿にハッシュタグを付ける、当館に関する投稿に「いいね」を付けなどしたことで、インスタグラムのフォロワーが718人（521人増）、フェイスブックのフォロワーは101人（48人増）となった。 ●インスタグラムに比べ、フェイスブックのフォロワー数が伸び悩んでいる。	A			
	③関係機関への情報提供	プレスリリース	10回	14回	○コレクション展、特別展の開催や関連イベント、また、アウトリーチ事業等について、その都度情報提供を行った。	A			
		情報誌等への情報提供	140回	140回	○定期的な情報提供のほか、単発の提供依頼もあり、ほぼ目標通りの発信ができた。 ●情報提供先について、効果的な広報につながっているかを検証し、継続の有無や提供内容を整理していく。	B			
	④広報資料の提供	広報資料の提供（発送）	5回	6回	○マニュアル化し、広報物の組み合わせを工夫して適切に6回の発送できた。 ●郵送代が年々上昇しているため、発送先や発送物を精査する必要がある。	A			
⑹連携・参画	①地域における美術制作事業の実施	地域でのアウトリーチ事業の実施回数	2回	5回	○「旅する美術館・旅してアート」事業において、当館の収蔵作品展を椎葉村と高千穂町の2町村で開催した。会場では展示、ギャラリートーク、創作体験を実施するとともに、開催地近隣の小中学校3校で、映像番組上映や日光写真による簡単な造形体験を行った。	A			
	②他の文化施設や学校教育、ボランティア等との連携	他館・施設との連携による取組	3件	4件	○南九州アートラインを組織している都城市立美術館と霧島アートの森との連携会議を実施し、各館の運営状況や取組等について情報交換を行った。 ○県立芸術劇場、県立図書館、県総合博物館との4館見学ツアーを、3団体に対して実施した。 ○県立文化施設6館によるイベントカレンダーを年間2回発行した。 ○県博物館等協議会による総会や研修会等に参加し情報交換等を行った。 ●アートラインカードの3館のスタンプラリー達成者や、4館見学ツアーの利用者が近年減少傾向にあり、広報を充実させる必要がある。	A			

A：目標を大きく上回った（120%以上）　B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満）　C：目標を下回った（60%以上90%未満）　D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R5年度	内部評価			外部評価	
基本方針	項目			実績値	成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
(6)連携・参画	②他の文化施設や学校教育、ボランティア等との連携	学校向け美術教材の貸出	9件	8件	○美術教材（アートカード、アートボックス）を希望する学校に対して直接貸出を行った。 ○アートカードを収納するケース１8セットを、プラスチックケースに変更し利用しやすくした。 ●コロナ禍のブランクもあり、アートカード自体を知らない先生も増えている。実際に利用や体験ができる機会の設定や広報を検討、実施していく。	C	A	委員からの意見は特になし	A
		美術館サポーターの活動	延べ 100人	延べ 264人	○サポーター全体会を4回、新規サポーター研修を2回開催し、新聞スクラップや屋外彫刻清掃及びイベント補助を中心に活動できた。 ○新規サポーターの募集に8名の登録があった。 ●年間を通して参加が少ないサポーターも見られるため、サポーターが取り組みやすい内容に工夫・改善していく。	A			
		インターンシップ等の受入れ	1件	4件	○キャリア教育にかかわる就業体験の場として、生徒・学生の実習を受け入れた。展示室やインフォメーションでの来館者対応業務の補助や講座等の準備及び団体対応の実際など、様々な体験実習を提供・実施した。 ○高等学校2校と中学校1校で計8名の生徒と、県庁インターンシップ1件で3名の学生を受け入れた。	A			
	③創作・発表の場の提供	アトリエ利用者数	150人	616人	○計画的に稼働し、一定数の利用者があった。また、展覧会関連や研修等で、臨時的な利用場面が増えた。 ○実技講座の参加者にアトリエの利用案内を行ったり、ポスターやSNSによる広報を行ったりするなど利用促進を図った。 ●新規利用者は依然伸び悩んだため、利用促進について更に検討していく。	A			
		県民ギャラリー等稼働日数	180日	224日	○リピーター（団体）を中心に利用があった。 ●施設の老朽化により貸出中に照明の不具合等が生じ、対応に苦慮することがあった。	A			
	④みやざき総合美術展の開催	応募点数	1,100点	1,115点	○75歳以上の出品者が37%を占めるなど、生涯学習の発表の場としていかされている。 ○企画委員によるSNSを活用した広報や高等学校への出品の働きかけを行うことができた。 ○前年度に比べて彫刻部門（＋7点）とデザイン部門（＋25点）で出品点数が増加した。 ●若い世代（～40代）の出品者や出品点数増に向けて、本展の魅力が伝わる広報やイベントを充実させる必要がある。	B			
		鑑覧者	6,100人	6,321人	○前年度（6,334人）と同程度の観覧者数であった。アンケートでは、72%の来場者から展覧会について満足との回答を得た。 ○表彰式、記念講演会（写真部門）、関連イベント（絵画部門、書部門）を実施することができ、当館カフェとのコラボメニューも好評であった。 ●来館者アンケートの回答者のうち、60歳以上の割合が54%を占めており、若い世代の観覧者数が少ない状況がうかがえる。	B			

A：目標を大きく上回った（120%以上）　B：目標を概ね達成した（90%以上120%未満）　C：目標を下回った（60%以上90%未満）　D：目標を大きく下回った（60%未満）

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R5年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題	評価	総合評価	委員の意見（概要）	総合評価
⑺人材育成	①職員の人材育成等	県外研修・視察への派遣割合	50%	113%	○業務上参加可能な研修には、できるだけ参加し、職員間での情報共有に努めた。また、県外美術館等への視察や調査も積極的に行った。	A	A	■博物館実習の受入れに関しては、大学のカリキュラムの関係もあり長期実習は難しくなってきている。博物館との関連もあり、短くしづらい部分もあると思うが、現状にあった実習のあり方を検討ほしい。 ⇒今年は８日間の予定で行っていたが、台風の影響で６日半に短縮となった。今後も職員の業務等のバランスも考え日数を検討していきたい。	A
	②博物館実習の受入	実習希望者の受入割合	100%	－	○博物館実習については、前年度から本県出身の学生1名の希望があり準備を進めていたが、履修の関係で当年の実習は辞退となった。 ○県総合博物館の博物館実習生の見学や、宮崎大学の博物館関連の講義・見学を受け入れ、学芸職員が講義や案内等を実施した。 ○博物館実習の受入要領を、秋に美術館ホームページのトップページに掲載するようにしたところ、学生及び大学から問い合わせがあり、令和6年度の実習受け入れへとつながった。 ●実習希望者が参加しやすいように、美術館の役割や仕事についても、発信していく。	－			
⑻管理・運営	①施設・設備の適切な管理	防災研修・避難訓練等の実施	100%	100%	○5月のメンテナンス休館中に自衛消防訓練・避難訓練を実施した。訓練に先立ち、避難経路や消防設備の位置を確認するとともに、防災に関する動画視聴や委託業者による消防設備の解説も行った。 ○特別展監視等員のマニュアルを見直し、消防設備の位置や避難経路を明示した。 ●訓練開始のタイミングや避難完了後の報告など、スムーズではなかった部分もあったため、今後の訓練に反映させていく。	B	A	委員からの意見は特になし	A
		検査等の指摘事項への対応	100%	90%	○監査等における指摘事項は特段なかった。 ○空調設備改修工事の設計委託、自動火災報知設備改修工事、非常用放送設備更新工事を行った。開館当初導入された設備等において、老朽化等により更新が必要なものについては、引き続き検討を行っていくこととする。 ●経年劣化により故障したものについて適宜修繕を行ったが、予算の関係で実施できていないものもあるため、今後も計画的に実施していく。	B			
	②施設の積極的な活用	施設見学者の受入れ	4,000人	6,966人	○感染症の影響により減少していた団体が、感染症対策前に戻りつつある。特別展観覧者やリピーターの団体利用者が多く、特に一般の団体件数が増えた。 ●小中学校においては、行事の見直しや精選が行われたためか、感染症対策前より参加人数が減少した。特に小学校の団体件数が減少している。	A			
		アートホールの活用	270人	1,174人	○利用団体へ開催中の展覧会を案内し、観覧者数増に努めることができた。 ○県民ギャラリーの使用団体による講演会等や、県や市の関係職員の会議の場としての利用が増加した。	A			